令和元年度 佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール審査会
【審査員講評】

【全体】

・一人一人が自然を守る、緑を守る、育てるということを意識して、素晴らしい作品に仕上がっていました。制作の意図が多くの人に伝わり、緑豊かな世界になればと思います。

・小中学校は指で描く。絵の具を飛ばしたりコラージュしたりするなど、多様な技法を用いて、生命感・躍動感のある作品が多くあった。高校は、一歩まちがえば危機的な状況になる未来について真剣に考えた作品が多かった。

・小学生～高校生すべての作品が森林や緑について守り育てようとする意識が感じられた。

・小学校低学年の子供でもおどろくほど上手で、こと高校生に至っては、色あいやタッチもすばらしい作品が数多く見られた。

【最優秀賞（小学生の部）】

・力がみなぎる作品でした。自然のめぐみを大切に、動物たちも喜ぶ森が増えていくといいですね。

・動物たちの表情が生き生きとしており、白い絵の具であらわされた光や木のあざやかさがまぶしい作品だった。

・色調が豊かで、森とそこに住む生きものの関係を見事に表現していた。

【最優秀賞（中学生の部）】

・やわらかい色づかいで優しい気持ちになる作品でした。画題「森の美しさ」がとてもよく表現されていたと思います。

・とても明るい色彩で、自然と人間が調和した美しい世界が一点透視図法を用いて明快に表現されていた。

・奥行きのある森の空間を表現しつつも、草木や生き物の共存をきれいに描いていた。

【最優秀賞（高校生の部）】

・木の芽を見て、動物たちが集まり、喜ぶ様子が目の前にあるように描かれていました。この芽を大切に育てていきたいですね。

・木の成長を見守る動物の表情がとてもかわいらしく、また中央の若葉がキラキラと鮮やかに表現されている。

・芽ばえたばかりの木の芽を様々な動物たちが囲み、木と生き物が交わり、くらしていくことの重要性を表現していた。